



深草徹の「ここがポイント」

「アメリカ・ファースト」との闘い

深 草 徹



トランプ大統領が、「アメリカ・ファースト」を呼号し、世界をひっかきまわしています。しかし、アメリカ・ファーストは、今に始まったことではありません。

「条約は、日本の必要と思われる場所に、必要と思われる期間、必要と思われる規模の軍隊を保持する権利を合衆国に与える。軍隊と日本政府の関係に係る諸問題、軍隊の維持費に対する日本の貢献の範囲、安全保障取り決めの実施に係る諸問題は条約の発効と同時に効力を発する日米二国間補助協定の対象となる」。

これはアメリカの外交・安全保障政策の司令塔とも言うべき、国家安全保障会議が、1950年9月8日に作成した文書（NSC60-1）の邦訳文からの抜粋で、日本との講和条約の目的を明らかにした部分です。

太字の部分にご注目下さい。これこそ、元祖アメリカ・ファーストではないでしょうか。サンフランシスコ講和条約・安保条約・日米行政協定の三点セットは、この目的を実現したもので、その後、安保条約は改定され、日米行政協定は日米地位協定となりましたが、中身は何も変わっていません。日本の米軍基地問題の根源は、ここにあるのです。

ですから米軍基地問題を最大の争点とする沖縄の闘いは、アメリカ・ファーストとの闘いだ、と言ってよいでしょう。

(九条の会.ひがしなだ共同代表、深草憲法問題研究室主宰)

「海運堂」4周年

「みんなの居場所」が着々と “住み開き”で広がる繋がり

砂田 沙紀

自宅を「海運堂」と名付け、定期的に開放し、様々な催しを開催しています。先月、4周年を迎えました。0歳だった娘は4歳になり、当時いなかった息子は、2歳となりました。

「みんなの居場所にしたい」「みんなで、みんなの子どもを見る」—そんな理想を描いて家を借りましたが、いざ始めてみると、どうすればいいか何も分からず、試行錯誤。

とにかくウチを知ってもらおう、ということで、養生の講座、子ども向けの工作教室、絵本の読み聞かせ、囲碁教室、ボードゲーム大会、そして憲法カフェなどを開催してきました。

4年経ち、海運堂を紹介する繋がりが確実に形成されてきた、と実感できるこの頃です。催しに参加される方同士が「あれ?!、かなり前にここでおいしかったですよね?」と繋がる瞬間に立ち会えるのは、嬉しいことです。招く方も、招かれる方もどんどん慣れて、なめらかな空間になってきました。紹介もあって、ラジオや女性誌などにも繋がりました。

やりたいと思うこと「だけ」をしてきた道は、今後も続けたい、と思っています。



3歳10か月の記憶

森井 俊行

人間の記憶は、4歳まで辿れるという。私には、3歳10か月のときの、忘れられない記憶がある。昭和20年6月、岡山は米軍機による大規模な空襲を受けた。当時、耳と目の治療のため、岡山の祖父母に預けられていた私はその日、未明の暗がりの中で、慌ただしく動きまわる祖母に起こされ、そのまま背中に負われて家を出た。外では暗い道を、多くの人が右へ左へ動き回っていた。ぼんやりした記憶に浮かぶ情景は、成人して見た映画の空襲場面そっくり。最も強烈な記憶は、私たちが逃げていく途中で見た、焼夷弾による物凄い火災の発生だ。ザーツという音とともに、まるで線香花火のように落ちてくる焼夷弾。私達は運よく、それにやられなかったのが、助かった。そのまま倉敷まで歩き、そこから汽車で金光の八重まで逃げ帰ったとのことを、後に母から聞いた。

実は不思議なことに、この3歳10か月の経験を、70年も経った、今から2年前の大晦日の夜に、夢の中に見た。こんなことがあるのだろうか。よほど強烈な記憶として、私の心の中に刻印されたものだ。

幼い頃の私は、花火を怖がっていた、と母が言っていた。トラウマ状態から、抜けられなかったのだろう。こんな恐ろしい経験は、誰にもしてほしくない。

それにしても、今の安倍政権の進む方向の先には、こんな状況も再現され得るのではないか、と思うのは私だけであろうか。

(神戸大学名誉教授、 2018. 9・13記)

檻の中のライオン憲法講座⑦

民主主義=多数決? ~立憲民主主義~

椋 大樹

檻(おり) = 憲法を作る力を持っているのは私たち。これが国民主権です。

それだけでなく、どんなライオン(権力)を檻に入れるかも、私たちが選挙で決めます(選挙権・民主主義)。この仕組みなら、私たちが生まれながらに持っている人権が、守られるはずだからです。

ですから、いくら選挙で選ばれたからといって、ライオンは何をしてもよいわけではありません。檻=憲法の枠の中で仕事をしなければなりません。

民主主義とは、単なる多数決ではありません。①意見の違う相手の話にも耳を傾け、議論すること。②数の力で少数派の人権を侵すようなことをしてはいけないこと。このような民主主義を、「立憲民主主義」といいます。

しかし、最近の政治は、そうっていないのではないのでしょうか。「立憲」か「非立憲」か、そこがここ数年、問われているテーマだと思います。

参照『檻の中のライオン 憲法がわかる46のおはなし』椋大樹著(かもがわ出版)。

(はんどろ・たいき、明日の自由を守る若手弁護士の会、ひろしま市民法律事務所)



11月24日に「平和のつとめ」 「朝鮮学校無償化除外問題」で

新原 三恵子



『2018 平和のつとめ「前川さんに聞く～朝鮮学校無償化除外問題」』を、11月24日午後2時から、元町の私学会館で、開催します。

文部科学省の事務次官だった前川喜平さんのお話を聞くだけでなく、朝鮮学校の生徒、オモニ（母親）に発言、質問をしてもらい、参加者も一緒に、この問題について考えましょう、という集いです。

オモニから、次のようなメールをもらいました。『各地で朝鮮高級学校にも無償化制度を求める裁判が行われている中、先日、長男が日朝友好兵庫県民の会の方々が主催するビラ配り、署名活動に初めて参加してきました。感想を聞いてみると、ほとんどビラを受け取ってもらえず、「チツ」と舌打ちをされたり、無視されたりした、とのことでした。話を聞いていた夫は、「何か、されへんかったか？」と心配な様子。そんな心配をよそに、長男は「支援してくださる日本の方々の思いに感動した。自分の時は

無理でも、弟や妹が朝高に通う頃には、高校無償化実現したいなあ」と』。

とんでもないことです。この問題の責任は日本、安倍政権にあるのに。何とかしなければ。

(I (アイ) 女性会議ひょうご)

ハナ絵モンの思い⑤

「災害大国」で考える憲法

関本（旧姓市川）英恵

憲法のありがたみは、「困った時に初めて分かる」とも言われますが、今こそ憲法をいかさなければなりません。「災害大国」にもかかわらず、日本の避難所では、おにぎりが配られますが、これは関東大震災から進歩していない、とか。新憲法が制定され、被災者支援は恩恵でなく、「権利」として受けられなければならないのに……。

被災地だけでなく、オリンピックや介護保険制度でも、ボランティアが必要だと叫ばれていますが、ボランティアや寄付はあくまで善意。健康で文化的な生活のために必要なものについては、国が保障する「義務」があるのです（オリンピックは、そもそも東京開催の必要性があるのか、不明ですが）。

1・17を経験したKOBEには、助け合いの文化がある、とよく耳にしますが、あの大震災後、「公的支援を」と、運動があったはずですが。被災地に入った人には、どんな公的支援が必要か、声をあげてもらいたいです。

そういえば、憲法に「緊急事態条項」が不要なことは、今夏の豪雨・台風・地震などで、安倍さんが教えてくれましたね。

(「憲法の歌」作詞者、認定NPO法人・しみん基金KOBE理事)



映画案内

「返還交渉人～いつか、沖縄を取り戻す～」 信念の外交官＝千葉一夫を描く

久家登志子

原案宮川徹志、監督柳川強、脚本西岡琢也、語り仲代達也、千葉一夫役：井浦新、千葉恵子役：戸田菜穂といった、堂々たるスタッフ・キャストです。

1972年5月15日、沖縄返還。日本のプライドをかけ、アメリカと闘った外交官“千葉一夫”を知っていますか？（私は、この映画で初めて知りました）。外務省では、今も語り草となっている人物だとか。一般には、ほぼ無名の外交官ですので、脚本家の西岡琢也さんの参考になるようにと、ノンフィクションの原稿を並行して書いた宮川徹志の（『僕は沖縄を取り戻したい 異色の外交官・千葉一夫』岩波書店刊）を基に、この映画は作られています。製作著作はNHK（BSドキュメントドラマで放映され、その映画版）。



ほかに有名な日本の外交官では、ナチスの迫害から逃れさせるため、ユダヤ人達にビザを発行し続けた杉原千畝がいますが、それとは違う形で自分の信念を貫いた外交官だ、と映画を観てつくづく感じました。

今も沖縄は、本土から米軍基地を押し付けられています。外交官が必死に交渉しても、いとも簡単に政治でひっくり返される——そんな日本にならないよう、政府を監視していきましょう！

（神戸市東灘区魚崎南町在住）

九条の会. ひがしなだ 憲法学習会 改憲策動の現状にどう立ち向かうか

講師 石川康宏さん（神戸女学院大学教授）

日時 9月30日（日）14:00（開場13:30）
会場 東灘区民センター第1・第2会議室



催し案内

連続講座「いつも心に憲法を」④
「いま学校で何が起きているのか」
日時：10月30日（火）18:30～
会場：神戸市勤労会館308号室
講師：奥野泰孝教諭（大阪府立支援学校）
主催：9条の心ネットワーク



編集後記
かつて「悪い奴ほどよく眠る」という映画がありました。昨今の安倍政権を見ていると、つい思い出します。国民の声は「アベ改憲NO!!!」
3000万署名をやり切って、安倍内閣を退場へ！！（A, T）